

国際社会・ 地域社会とともに



国際社会・地域社会とともに

富士通グループは、FUJITSU Wayの企業指針に掲げた「社会に貢献し地球環境を守ります」に基づき、社会の一員として、企業活動を通じて豊かな社会づくりを担っていきます。

具体的には、文化・芸術活動、企業スポーツの振興、将来を担う青少年の育成、国際交流の支援、地域活動などの社会貢献活動を通じ、世界各地において地域に根ざした企業として地域社会との共生を図ります。

2008年度の社会貢献活動の実績一覧

学術・教育の振興／国際交流

- JAIMS (日米経営科学研究所) の運営
- 数学オリンピック財団／NPO法人情報オリンピック日本委員会への活動支援
- 富士通奨学金制度
- 富士通キッズサイト

文化・芸術活動

- 富士通コンサートシリーズへの協賛
- 富士通コンコード・ジャズ・フェスティバルへの協賛
- 第16回富士通杯「達人戦」の開催(将棋界唯一のシニア戦)
- 第21回世界囲碁選手権・富士通杯の開催
- 富士通レディースゴルフトーナメントへの協賛
- 川崎フロンターレの活動を支援 など

企業スポーツ

- 陸上競技
- アメリカンフットボール
- 女子バスケットボール

地域活動

- 川崎工場 春まつり
- 沼津工場 茶摘みフェスティバル
- 富士通ソリューションスクエアくすのき祭 など

災害支援

- ミャンマー サイクロンの被災地支援 (2008年5月)
- 中国四川省地震の被災地支援 (2008年5月)
- 岩手・宮城内陸地震の被災地支援 (2008年6月)



富士通キッズイベント2008

情報オリンピック日本委員会と共同で開催し、抽選で選ばれた約100名の子どもたちが、ゲームや遊びを通してコンピュータの仕組みや技術を学びました。



北京オリンピック

富士通陸上部から計6名が出場し、塚原直貴選手と高平慎士選手が400mリレーで日本チームとして銅メダルを獲得しました。たくさんのご声援ありがとうございました。



全日本実業団駅伝 (ニューイヤー駅伝) 2009

毎年元旦上州路を舞台に開催される「全日本実業団駅伝」で2000年に続き2009年優勝いたしました。陸上部の活躍が評価され「トップアスリートサポート賞」優秀団体賞を受賞しています。[写真提供:池田 理]



川崎工場春まつり

2009年は「環境・技術・スポーツの川崎工場へようこそ」をキャッチフレーズに開催され、川崎工場のさまざまな取り組みを紹介しました。



富士通奨学金制度

アジア太平洋地域18カ国のビジネスパーソンにJAIMSのマネジメントプログラムで学ぶ機会を提供しています (2009年4月1日で累計受給者約360名)。



川崎フロンターレ サッカー教室

富士通が支援している川崎フロンターレの協力を得て、地震で被災した岩手の子どもたちを激励するためにサッカー教室が開かれました。

社会貢献活動の考え方

富士通グループでは、良き社会人として地域や社会と調和することを重要な行動指針とし、お客様、株主、社員、お取引先、国際社会・地域社会、公共機関、行政などすべてのステークホルダーの利益に配慮しながら成長する「社会の持続可能性への責任」を果たしていくことをめざしています。

その一環として、富士通グループでは、将来を担う青少年の育成とさまざまな分野における活躍の場の提供に努めるほか、国際社会・地域社会との積極的なコミュニケーション活動、さらには環境保全活動(P69参照)などの社会貢献活動を推進しています。

WEB 社会貢献活動
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/community/>

2008年度の活動ハイライト

JAIMS (日米経営科学研究所) の運営

JAIMS (Japan-America Institute of Management Science) は、1972年に富士通が全面的にバックアップして設立された大学院レベルの教育を行う非営利の教育研究法人です。「日米間のビジネスウェイトが増大する将来に備えて、日米の架け橋になる国際ビジネスマンを養成したい」という当時の社長、高羅芳光の構想をもとに設立されました。現在は、「ビジネスリーダーの育成を通じて、アジア太平洋地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティ開発に貢献する」ことをミッションとして活動しています。

富士通ではJAIMS設立以来、運営資金の拠出に加え、その活動を支援する組織を社内に設置し、JAIMS日本支所として日本国内での宣伝広告および留学相談窓口業務、セミナー企画、外国人研修生の受け入れなどのサポートを続け、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献を推進しています。

JAIMSへは、留学プログラムへ約3,000名、海外セミナーへ約20,000名など、これまで54カ国からのべ約23,000名の方々が参加してきました。参加者はJAIMSで学んだ異文化コミュニケーションスキルやマネジメント知識、グローバルな人的



JAIRSの学生たち

ネットワークを活用し、世界各国で活躍しています。

2006年には、30年以上にわたって国際交流の促進へ寄与してきたことなどが評価され、「平成18年度外務大臣表彰」を受賞しました。

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援

富士通は、(財)数学オリンピック財団および特定非営利活動法人 情報オリンピック日本委員会の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック(IMO)への日本代表選手の選抜、派遣に関する事業を通じて数学的英才を発掘し、一層の伸長を図るとともに、数学教育の国際的視野での改善、発展に貢献することを目的として1991年に設立されました。富士通は、設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を出捐し、また、IMOへの日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック(JMO)や日本ジュニア数学オリンピック(JJMO)の成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。

また、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理工学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック(IOI)への参加および協力事業を展開しています。富士通は賛助会員としてその運営を支援するとともに、IOIへの日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック(JOI)の成績優秀者に副賞を提供しています。



第8回日本情報オリンピック表彰式

国連世界食糧計画(WFP)への協力

富士通は、毎年の創立記念日に、全従業員への記念品として弁当を配布しています。

2008年度からは、この記念品費用の一部を国連世界食糧計画(WFP)へ寄付しています。2009年度以降も、従業員に対して社会貢献意識の向上を促し、世界の飢餓・貧困の撲滅に向けた従業員一人ひとりの行動につながることをめざして、寄付を継続していく予定です。

パソコン組立教室の開催

2008年7月に富士通アイソテック(株)(FIT)で、8月に(株)島根富士通(SFJ)で小中学生を対象にしたパソコン組立教室を開催しました。

FITではデジタル放送やDVDが楽しめるデスクトップパソコン「FMV-DESKPOWER LX/A50D」、SFJでは天板カバーが取り外し可能で色の着せ替えが楽しめる「マイジャケ」に対応したノートパソコン「FMV-BIBLO NF/A70」のパソコンを約1時間半の工程で組み立てました。子どもたちは保護者と一緒に自分のパソコンを一生懸命組み立て、実際に起動して画面が立ち上がった時には喜びの声を上げていました。

組み立て後には、FITではリサイクルセンター、SFJでは組み立てラインを見学するとともに、組み立てたばかりのパソコンを使った演習が行われました。

丁寧に作り上げられたパソコンは一度工場で検査を終えたあと、後日、各家庭に届けられました。



真剣にPCを組み立てる子どもたち

WEB 開催レポート

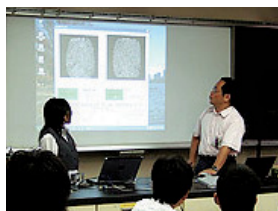
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/events/>

※富士通キッズサイトのイベント一覧からご覧ください。

生体認証技術の体験授業

2008年8月、富士通研究所は若い世代に技術の面白さを伝える目的で、川崎市立平間中学校の生徒を対象に、生体認証(バイOMETリック認証)に関する授業を行いました。

「生体認証」とは、声や指紋など、人それぞれで異なる体の特徴を本人証明に利用する技術です。講師を務めたのは、入退出管理などに利用されている「手のひら静脈認証」の研究・開発にかかわった研究者。授業に参加した19名の生徒たちは、指紋認証、声紋認証、顔認証、手のひら静脈認証といったさまざまな認証システムを実際に体験しながら、技術への理解を深めました。



体験授業の様子

子どもたちの情報モラル教育支援

インターネットや携帯電話の使用に伴うトラブルに子どもたちが巻き込まれるケースが増加しています。こうした

なか、インターネット接続サービスなどを展開するニフティ(株)では、「本来は便利で楽しい情報ツールであるインターネットを、子どもたちにもっと安全に利用してもらいたい」という思いから、「情報モラル教育」を支援しています。

“情報モラル”には、大きく分けて、情報社会で安全に生活するための危機回避方法や、セキュリティの知識・技術などを学ぶ「知識を磨く領域」と、情報社会における正しい判断力や望ましい態度、思いやり、公共心を育てる「心を磨く領域」という2つの側面があります。同社は、この両面から教育支援活動を展開しています。

その一環として、2008年6月から、ニフティの本社所在地である東京都品川区の小中学生を対象に、「インターネット・ケータイを安全に使うために」というテーマで「情報モラル教育」の出前授業を実施しています。授業では、インターネットや携帯電話のトラブルに子どもが巻き込まれた事例を挙げ、「何がいけなかったのか」「どうしたらよかったのか」を子どもたちに考えさせ、利用にあたっての心構えと危機回避方法などを伝えました。

2008年度は、品川区立小学校23校、約1,300名の子どもたちに対して社員有志28名が講師となって授業を実施しました。加えて、子どもが有害なコンテンツ・サービスにアクセスしないよう、保護者がインターネットや携帯電話の使用を制限する「ペアレンタルコントロール」の普及拡大をめざして、保護者・教諭向けの情報モラル講座も開催しています。

また、2008年9月には、「知識を磨く」ための小学校高学年向け学習コンテンツ「インターネット体験ドリル」を、2009年1月には、「心を磨く」ことを支援する中高生向け自己理解、他者理解の学習コンテンツ「動物エゴグラム」をインターネット上で公開し、累計で52万を超えるアクセスがありました。これらのコンテンツは、学校の授業や自宅での学習教材として利用いただいています。

WEB 教育支援活動:ニフティ株式会社
<http://www.nifty.co.jp/csr/edu/>



品川区立小学校での「情報モラル教育」出前授業の様子 「インターネット体験ドリル」のトップページ



Global Activity

海外グループ会社2008年度活動事例

1 社会貢献活動などをまとめた CRLレポートを発行

英国: Fujitsu Services Ltd. (FS)

欧州でアウトソーシングサービスビジネスを展開する Fujitsu Services Ltd. (FS) と、そのグループ会社の英国では、主要事業拠点ごとに地域単位で、“Impact on Society (IOS)” というグループを設けて、自主的に社会貢献活動に取り組んでいます。活動を促進するため、イントラネットではIOSサイトが設けられ、各種活動プログラムの情報が共有されています。

また、ここ数年、南アフリカの学校に対して人的・経済的・物理的支援を行っており、その活動を年々拡大しています。2009年からは、“PlayPump® Water System”の設置を行う「One Water プロジェクト」を支援しています。PlayPumpは子どもの遊びを原動力とする水の汲み上げポンプで、きれいな水の確保に役立てられています。

加えて、2009年1月には初めてCRLレポートを発行しました。このレポートは、上記のような社会貢献活動のほか、環境保全活動や顧客満足に向けた取り組み、働きやすい職場環境づくりなど、FSとグループ会社のさまざまな取り組みについて報告しています。また、活動目標についても“Metrics”で4分野に区分し、明文化しています。



支援するザンビアの学校

WEB Corporate Responsibility Report 2008
<http://www.fujitsu.com/uk/about/corporate-responsibility/>

2 プラネタリウム運営を通じた次世代育成への貢献

米国: Fujitsu America, Inc. (FAI)

Fujitsu America, Inc. (旧Fujitsu Computer Systems Corporation) は、カリフォルニア州クパチーノの州立デアンザ・カレッジに、プラネタリウムの運営と教室のIT環境整備の目的で基金を拠出しました。このプラネタリウムは「FUJITSUプラネタリウム」と名づけられ、2008年5



FUJITSUプラネタリウム内部

月に命名式が行われました。

FUJITSUプラネタリウムは、ロッキー山脈以西のカレッジで最大、北カリフォルニアで2番目に大規模なプラネタリウムです。付近の約450の学校から、毎年約25,000人以上の学生が来場しており、シリコンバレー地域の最新の宇宙科学の教育と次世代育成に貢献しています。

3 植樹活動や環境セミナーで現地社会に貢献

インドネシア: PT. Fujitsu Indonesia (FID)

PT. Fujitsu Indonesia (FID) は、2008年8月、お客様やパートナー様とともに、インドネシア科学院生物学研究所の協力を得てジャカルタ近郊のボゴール市にあるチニボン・エコパークにおいて、マンゴスチンなど熱帯植物約100本の植樹を行いました。インドネシアは広大な熱帯雨林に覆われているものの、焼畑農業に伴う煙害が近隣諸国との間で問題となっています。

このほかにも、FIDは各種のセミナーを開催し、インドネシア社会に対して環境技術に関する情報を発信するとともに、社内での電気や紙の省エネ活動推進、スーパーグリーン製品の拡販を通じて、環境活動を推進しています。



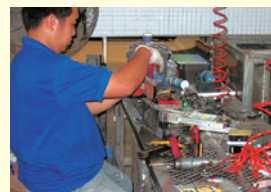
チニボン・エコパークでの植樹活動

4 奨学制度やIT教育で現地の人材育成を支援

フィリピン: Fujitsu Philippines, Inc. (FPI)

Fujitsu Philippines, Inc. (FPI) は現地の人材育成に力をいれています。1990年から「FPI奨学金制度」を設け、経済的に困難な学生がIT・コンピュータ関連学位を取得することを支援し、2009年4月までに75人の学生が奨学金を得ています。また、フィリピン大学で、APEC-IT訓練コースとして中小企業に基本的なITスキルを教えており、2008年には257名が参加しました。このほか、マカティ市の大学の1年間の日本語教育のスポンサー活動も行っています。

さらに、環境面の活動ではリサイクルを重視しており、2006年より電子廃棄物のリサイクルを行っています。



リサイクルの様子

お客様とともに

社員とともに

株主・投資家のために

お取引先とともに

国際社会・地域社会とともに

地球環境のために